

SDGs・DX意識調査（アンケート）結果について

一般社団法人北海道中小企業家同友会とかち支部

支部長 高原 淳

同友会事務局電話番号 0155-22-3611

この間、皆様にご協力をお願い致しておりました『SDGs・DX意識調査（アンケート）』の結果がまとまりました。ご協力ありがとうございます。

今回の調査は、中小企業基盤整備機構（略称：中小機構）が実施した2つの調査（中小企業のSDGs推進に関する実態調査（2022年3月1日）、中小企業のDX推進に関する実態調査（2022年5月16日））をベースに作成し、全国の中小企業とかち支部会員の違いを見出し、課題等を抽出し、今後の対応等を検討する目的で実施しました。

調査結果から全てが読み取れるわけではありませんが、中小機構の調査と対比して意外と思える結果が浮き彫りになりました。

■SDGsについて（Q1～4）

- ・認知度（Q1）、取り組み（Q2）とも、とかち支部会員のほうが全国より高い。
 - Q1）よく知っている＋ある程度知っている ⇒ とかち81%、全国47.1%
 - Q2）すでに取り組んでいる＋取り組む予定 ⇒ とかち66%、全国58.4%
- ・理由はとかち支部会員企業が同友会3つの目的のひとつ「よい経営環境をつくろう」という意識を持っているためではないか。
- ・当たり前に行っている、騒がれてやるものではない・・・という意見もあった。
- ・課題（Q3）では、「社内の理解度が低い」がとかち支部では目立った。

■DXについて（Q5～10）

- ・認知度（Q5）、取り組み（Q7）とも、とかち支部会員のほうが全国より高い。
 - Q5）理解している＋ある程度理解している ⇒ とかち57%、全国37.0%
 - Q7）すでに取り組んでいる＋取り組みを検討 ⇒ とかち52%、全国24.8%
- ・とかち支部会員の先進性の表れか？
- ・期待する成果（Q6）として、「ビジネスモデルの変革」が上位にのぼった（全国調査では低い）。
- ・課題（Q9）では、全国同様「人材」が上位を占めた。とかち支部では「何から取り組んだらよいかわからない」が3番目となった。
- ・DXの成果（Q7）では、とかち支部会員で成果を実感している企業は1/3ほど。これは全国よりも低い。人材とノウハウの不足が問題と考えられる。

このたびの結果を会員の皆様と共有すると共に、中小企業の現状として報道機関に公表して参ります。なお、出来れば同様の調査を毎年実施し、SDGs・DXに関する意識の変化を定点観測していければと考えております。

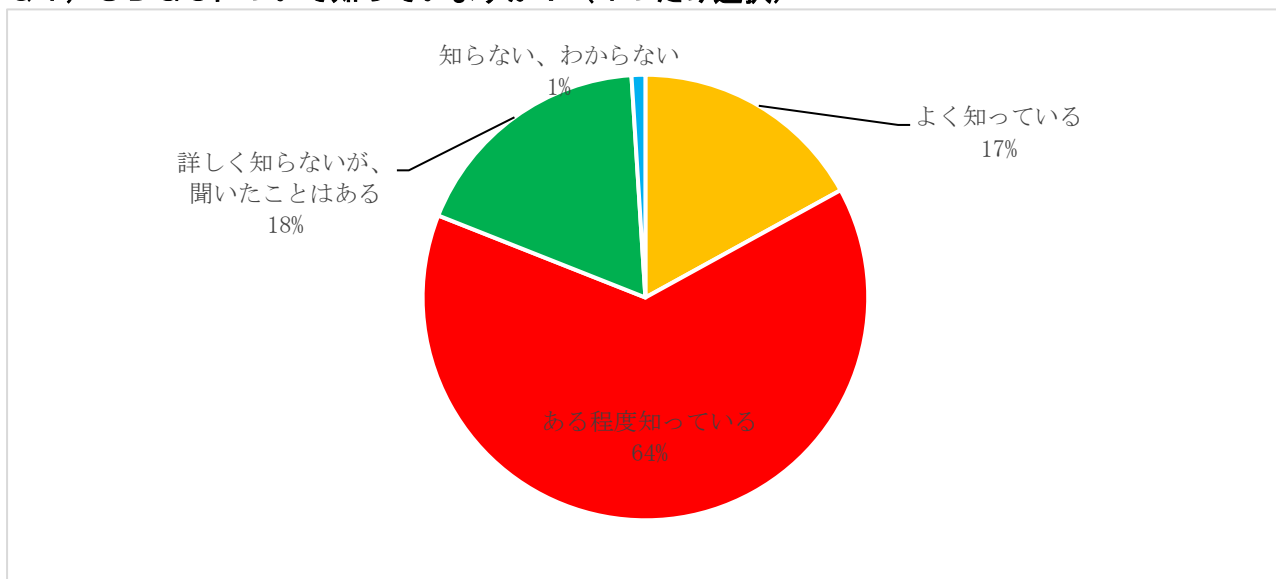
また、本調査では、SDGs・DXの推進に向けて期待する支援策の上位に、補助金・助成金の活用、取り組み事例の公表が上がっておりますので、そうした要望に応える学びの場を委員会等と連携し開催して参ります。

※回答数：100名（回収率11.4%） 実施期間：7月13日～8月19日

回答方法：FAXとGoogleフォームによる回答

調査（アンケート）結果の詳細は次ページからになります。

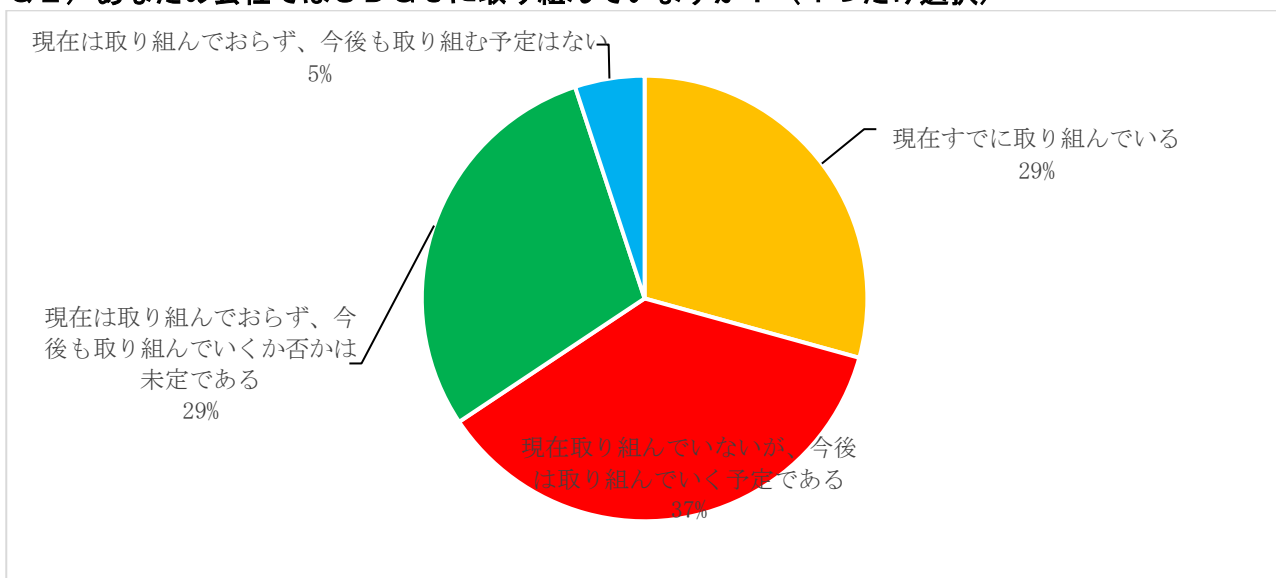
Q 1) SDGsについて知っていますか？（1つだけ選択）



よく知っている	17	17%
ある程度知っている	64	64%
詳しく知らないが、聞いたことはある	18	18%
知らない、わからない	1	1%

※知らない、わからないを選択した方はQ5へ

Q 2) あなたの会社ではSDGsに取り組んでいますか？（1つだけ選択）

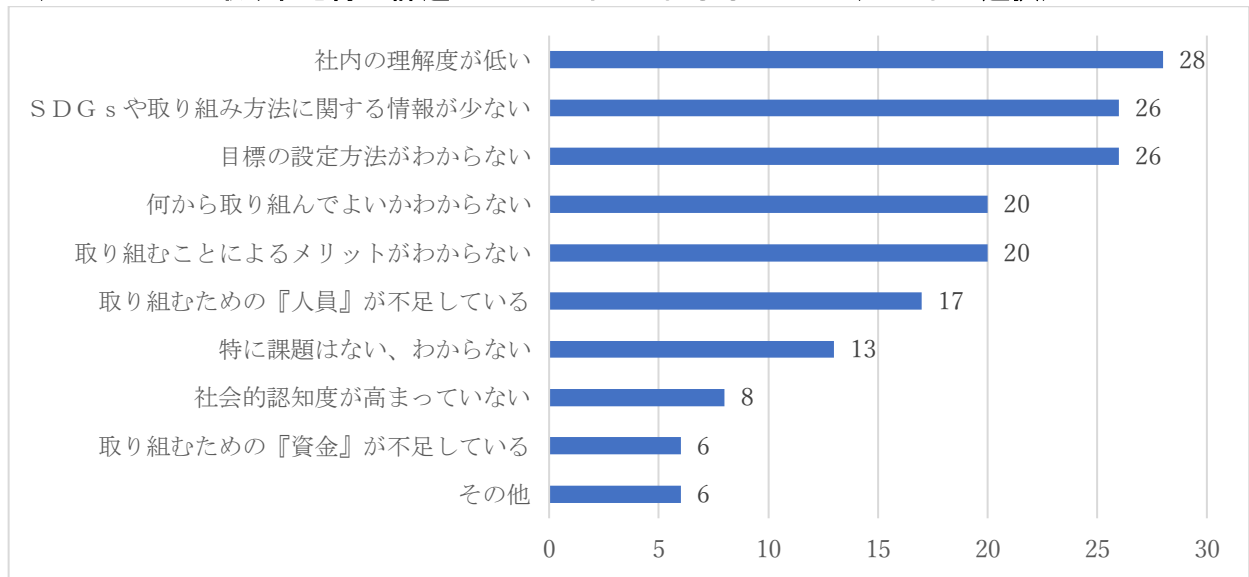


現在すでに取り組んでいる	29	29.3%
現在取り組んでいないが、今後は取り組んでいく予定である	36	36.4%
現在取り組んでおらず、今後も取り組んでいくか否かは未定である	29	29.3%
現在は取り組んでおらず、今後も取り組む予定はない	5	5.1%

Q2) で『現在すでに取り組んでいる』と答えた方は、取り組み内容を教えてください

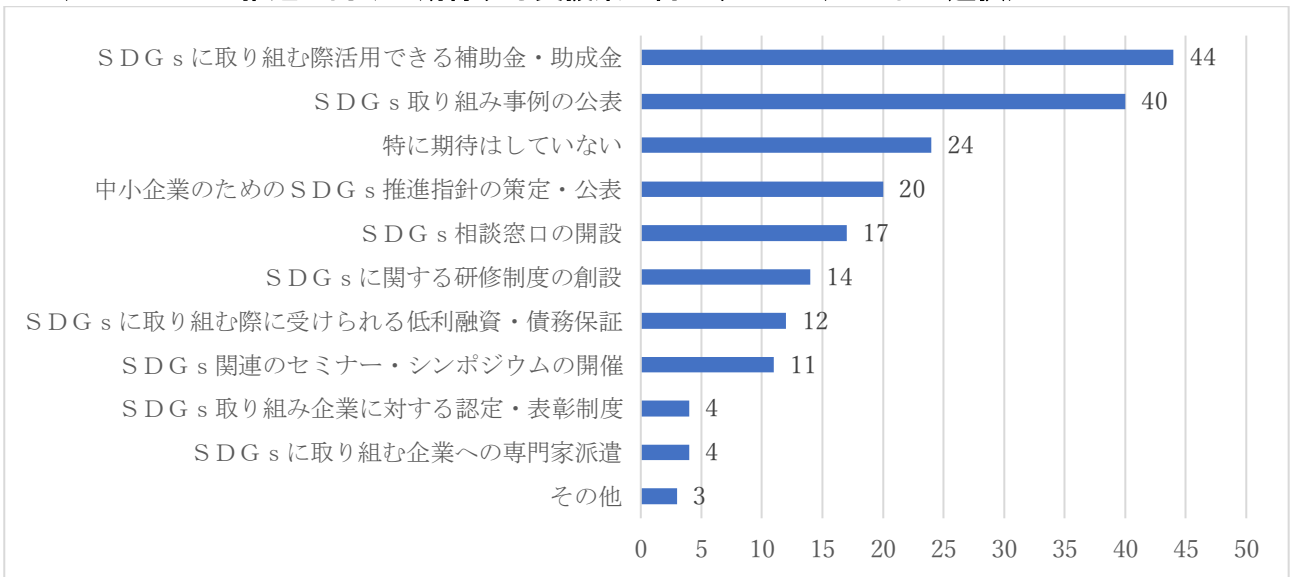
- EV 車の導入、ペーパーレス
- 社内の事柄に関連づけてロゴの掲示
- プラスチックごみの削減、新たな使用の制限、車両の乗り合わせ、お客さまへの啓蒙
- 自社使用分の都市ガスをカーボンニュートラル LNG にした
- 地域での健康作り
- 省エネ・脱プラ等
- 生活困窮されている方の理解と孤立支援
- 業務全般と紐づけている
- 食育活動
- 働き方改革、化学物質の削減、ジェンダー平等
- 選別工程で出る豆の莢や茎などを有機肥料の一部として牧場に提供し、循環型酪農の一助に。
- 使用済み包装資材（クラフト紙）をリサイクルへ。
- 産業廃棄物の分別による削減。
- ペーパーレス化の促進。
- 電気自動車への変換・地域イベントへの参加、料理教室の開催などを通し『豆料理』の普及を。
- 持続可能な食生活のための大豆による肉代替食の提供。
- 包装の簡略化 食品ロス減 イスラムの勉強(教育)
- 機器類 重機
- 社内研修など
- HP 上に SDG s への取り組みを掲載している
- たい肥と麦カン交換
- 地方創生 男女平等など
- エコ事業部
- たぶん、昔は産業廃棄物として焼却されていたでんぷんかすとビートパルプを45年間牛の飼料にしてきたし、1年中放牧酪農なので慣行の頼農と比べると充分取り組む事になってきたと思う。
- ゴミ拾いなど環境整備やペーパーレスなど
- 高排対ガス車両の使用
- 6月に2日間 SDG s についてのイベント開催（ゴール8） 8月6日も同様にイベント開催
- GGAP など仕組化による農場の持続化とつくる責任、農場で食育、雇用平等性、関係性ある取引先との経済成長と持続性。
- 客室清掃回数減 フードロス
- 12 つくる責任、つかう責任
- 牛の飼料の自給率を上げていく。肉をムダにしない
- 社員の教育チャンスの拡大
- オーガニック給食の普及

Q 3) SDGsに取り組む際の課題について当てはまるものは？（3つまで選択）



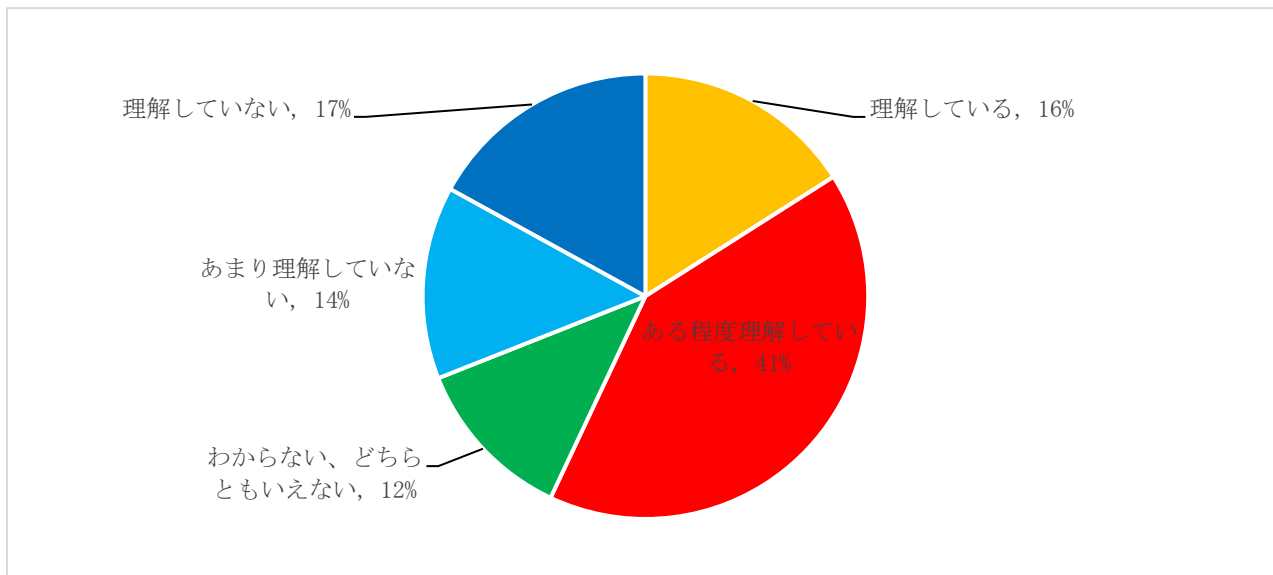
社内の理解度が低い	28
SDGs や取り組み方法に関する情報が少ない	26
目標の設定方法がわからない	26
何から取り組んでよいかわからない	20
取り組むことによるメリットがわからない	20
取り組むための『人員』が不足している	17
特に課題はない、わからない	13
社会的認知度が高まっていない	8
取り組むための『資金』が不足している	6
その他	6
<input type="checkbox"/> SDGs と騒がれ始めてやることではない。ISO と同じで流行りものだし、同友会でやることではない。 <input type="checkbox"/> できる内容とできない内容の差が大きすぎる。企業にとってメリットが少ない <input type="checkbox"/> 取り組むものの大きな活動に発展していかない <input type="checkbox"/> 設定が難しいので、職員がついていけない <input type="checkbox"/> あたりまえにやっていたことを今更「SDGs に取り組んでいる」という後ろめたさへの対応 <input type="checkbox"/> 理解度は低い＝普段それほど意識することがないのが問題	

Q 4) SDG sの推進に向けて期待する支援策は何ですか？（3つまで選択）



SDG s に取組む際活用できる補助金・助成金	44
SDG s 取組み事例の公表	40
特に期待はしていない	24
中小企業のためのSDG s 推進指針の策定・公表	20
SDG s 相談窓口の開設	17
SDG s に関する研修制度の創設	14
SDG s に取組む際に受けられる低利融資・債務保証	12
SDG s 関連のセミナー・シンポジウムの開催	11
SDG s 取組み企業に対する認定・表彰制度	4
SDG s に取組む企業への専門家派遣	4
その他	3
○業種によっては無理に全部取り組む必要がない	
○わかりやすさ、取り組みやすさ	
○SDG s に取組む会社が増えて連携して発展できたらよい	

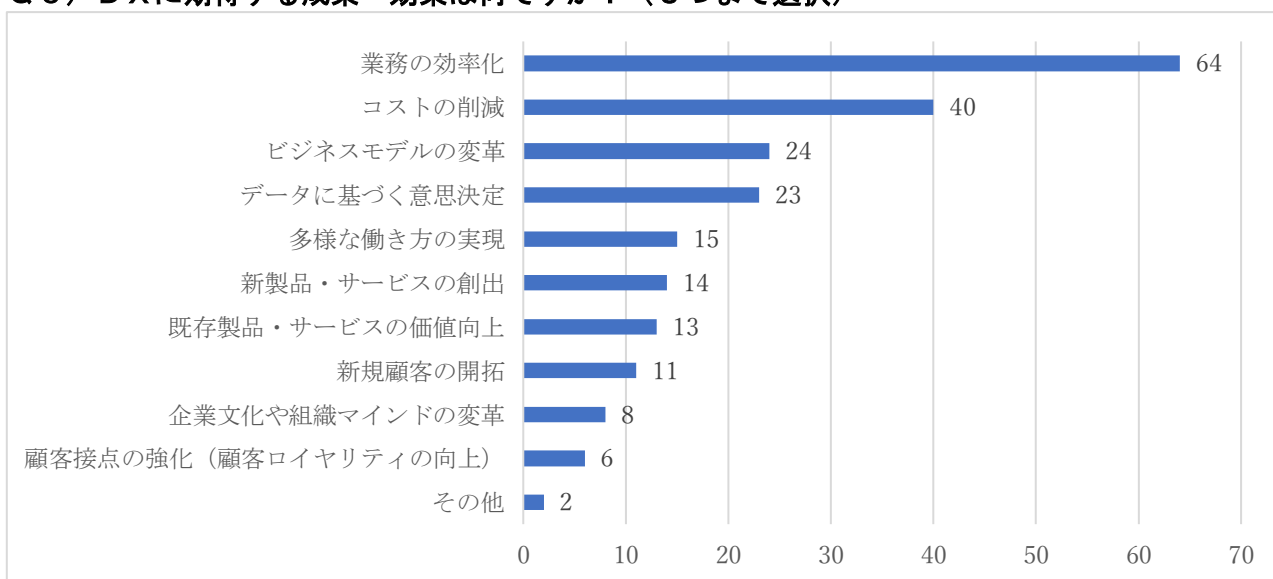
Q 5) DX (デジタル・トランスフォーメーション) について知っていますか? (1つだけ選択)



理解している	16	16%
ある程度理解している	41	41%
わからない、どちらともいえない	12	12%
あまり理解していない	14	14%
理解していない	17	17%

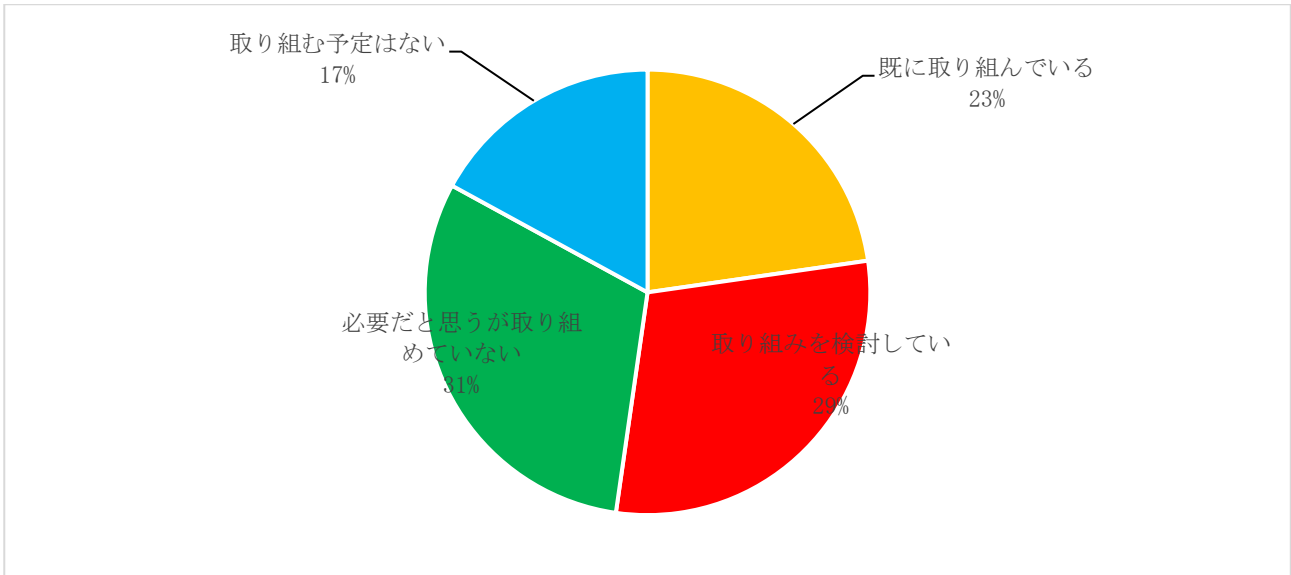
※理解していないを選択した方はQ11へ

Q 6) DXに期待する成果・効果は何ですか? (3つまで選択)



業務の効率化	64
コストの削減	40
ビジネスモデルの変革	24
データに基づく意思決定	23
多様な働き方の実現	15
新製品・サービスの創出	14
既存製品・サービスの価値向上	13
新規顧客の開拓	11
企業文化や組織マインドの変革	8
顧客接点の強化 (顧客ロイヤリティの向上)	6
その他	2
○安全確保 ○社員や家族の幸せ	

Q 7) あなたの会社ではDXに取り組んでいますか？（1つだけ選択）



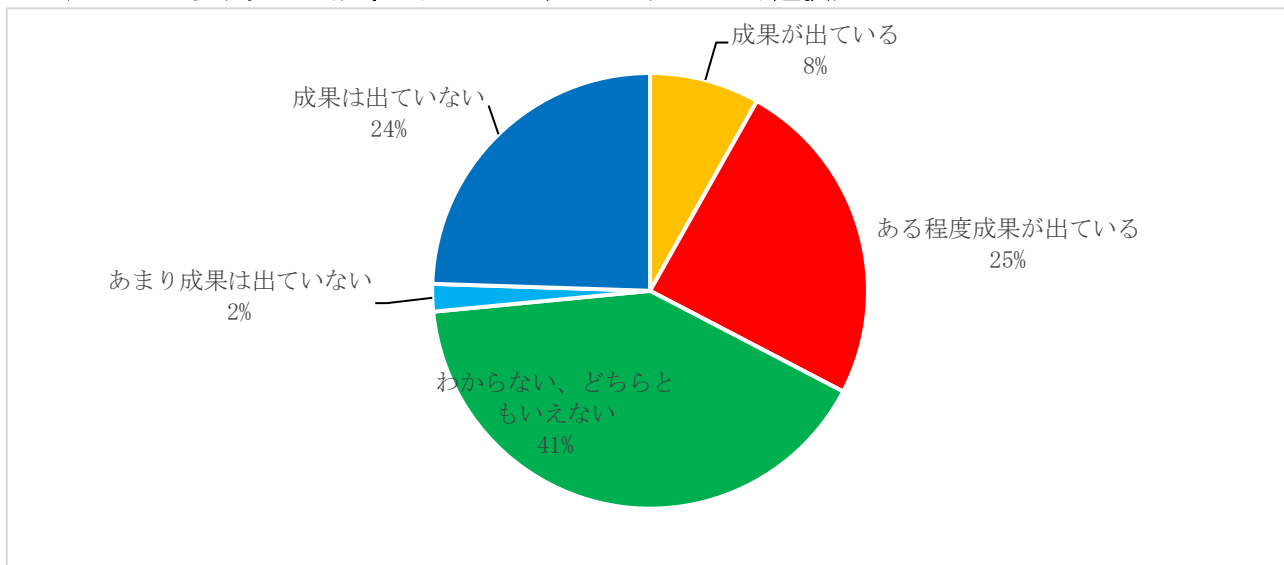
既に取り組んでいる	20	22.7%
取り組みを検討している	26	29.5%
必要だと思うが取り組めていない	27	30.7%
取り組む予定はない	15	17%

Q 7) で『既に取り組んでいる』と答えた方は、取り組み内容を教えてください

- 社内システムのクラウド化による場所を問わない働き方と業務効率化
- リモート在宅就労
- 情報伝達のデジタル化
- 社内決済のDX お客様向けDX
- スマート農業の実践
- 業務の効率化を目指して、最先端機器の導入
- kintoneによる業務改善・LINEWORKSによる情報共有・Eラーニングシステムによる社内教育
- 業務改革
- ノーコードツールを使った工程管理、ウェビナー、オンラインイベント等
- 機器類
- 会計ソフト、電子決済はあるが、まだたまたです。
- テレワーク
- 社内研修、専属化など
- LINEを利用した顧客への情報提供サービス
- 納品・請求書管理。パンフレットをデジタルパンフレットにしてお客様にもすすめている。
- 原価管理ソフトの導入
- 重機 ICT化、MC、MG
- 業務日報のデジタル化、顧客別売上管理など
- 電子決済、情報（ファイル）共有システム
- クラウド会計、日報等のサーバーでの管理

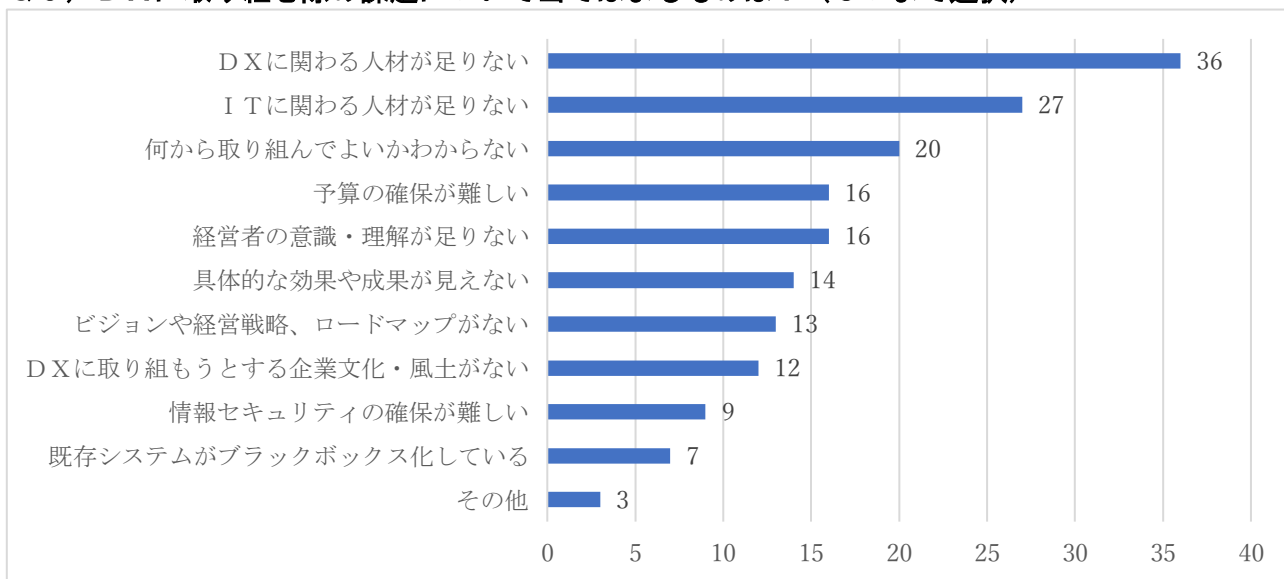
【Q7で『既に取り組んでいる』とご回答された方】

Q8) DXの取り組みで成果は出ていますか？(1つだけ選択)



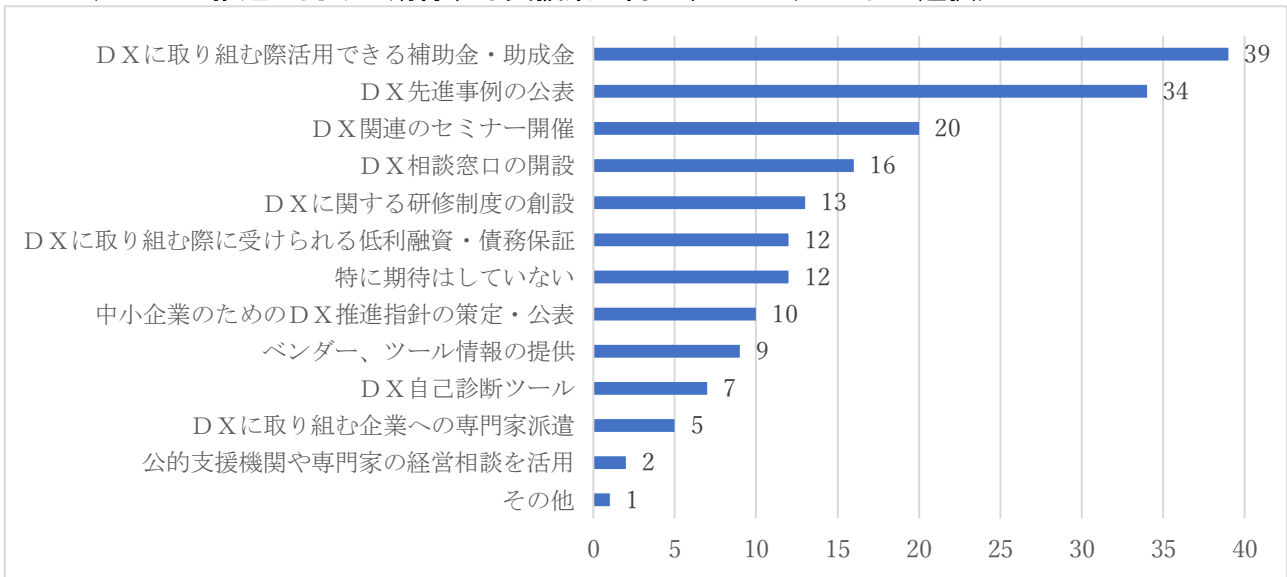
成果が出ている	4	8.2%
ある程度成果が出ている	12	24.5%
わからない、どちらともいえない	20	40.8%
あまり成果は出ていない	1	2%
成果は出ていない	12	24.5%

Q9) DXに取り組む際の課題について当てはまるものは？(3つまで選択)



DXに関わる人材が足りない	36
ITに関わる人材が足りない	27
何から取り組んでよいかわからない	20
予算の確保が難しい	16
経営者の意識・理解が足りない	16
具体的な効果や成果が見えない	14
ビジョンや経営戦略、ロードマップがない	13
DXに取り組もうとする企業文化・風土がない	12
情報セキュリティの確保が難しい	9
既存システムがブラックボックス化している	7
その他	3
○もともとニッチな業種のため、取り組む必要が今のところない	
○設定・操作が難しい	
○システムが一つに絞り切れない。わかりにくい	

Q10) DXの推進に向けて期待する支援策は何ですか？（3つまで選択）



DXに取り組む際活用できる補助金・助成金	39
DX先進事例の公表	34
DX関連のセミナー開催	20
DX相談窓口の開設	16
DXに関する研修制度の創設	13
DXに取り組む際に受けられる低利融資・債務保証	12
特に期待はしていない	12
中小企業のためのDX推進指針の策定・公表	10
ベンダー、ツール情報の提供	9
DX自己診断ツール	7
DXに取り組む企業への専門家派遣	5
公的支援機関や専門家の経営相談を活用	2
その他	1
○最近の補助金は、申請が複雑すぎるのをなんとかして下さい。	

Q11) とかち支部でのSDGs・DXに関する取り組み、または、とかち支部活動に全般に対する要望等あればお聞かせください。

- 会合のたびに配られる宣伝物とそれらを入れる紙袋。メール配信で見ているし、紙袋を毎度新たに用意する必要ないと思います。
- SDGsは「同友会」としてやることではない。
- 必要ない会社もあるので、必要な部分だけ実施すればいいという考えも広めて欲しい
- 購入後の操作の仕方
- SDGsのファシリができますので、同友会さんとコラボして取り組めると思います。
- 横文字。新用語が多くなり読めない、意味不明。
- 意識することから実行への雰囲気づくり
- 相談窓口？相談できるところがほしいです
- 現在牛の飼料として使っているでんぷんかすとビートパルプを、オーガニックのものが充分に入手できるようになったらいいなと思い、それを助けてくれる会員に会えたらいいなと思います。
- 各支部、委員会でのSDG's取組項目の選定。
- SDGsもDXも、明日から取り組めるようなささやかな取り組み事例をたくさん紹介していただくと、真似しやすくして自社にも導入しやすくなると思います。